

ユーザプロフィール

鹿島建設株式会社
(KAJIMA CORPORATION)

http://www.kajima.co.jp/

本社所在地：〒107-8388 東京都港区元赤坂1-3-1

T E L : 03-5544-1111 (代表)

創 業 : 1840年

設 立 : 1930年

資 本 金 : 814億円余

従 業 員 数 : 7,657名 (2014年3月末現在)



鹿島建設株式会社
ITソリューション部
情報基盤グループ グループ長
角川 友隆氏



鹿島建設株式会社
ITソリューション部
企画管理グループ
山本 潤氏

共通アプリケーション基盤として採用、社内システムの標準化を実現

鹿島建設株式会社(以下、鹿島)は、国内を代表する総合建設会社です。日本初の超高層ビルである霞が関ビルディングや、東京駅丸の内駅舎の復元工事など、国内外で数々のランドマークを建設。集合住宅やオフィス・商業施設、公共施設、エネルギー施設、交通施設など、幅広い分野にわたり豊富な実績を誇っています。

共通アプリケーション基盤としてのバランスの良さが魅力

鹿島の IT ソリューション部が初めて ColdFusion を導入したのは 2000 年のことでした。インターネット技術が急速に発展し、企業システムもクライアント/サーバ型システムから Web システムへの転換期を迎える中、他社に先駆けて、全社的に社内システムの基盤を見直していきました。

社内システムの Web 化に際してポイントとなったのが、バックエンドの各種システムとの連携を図ることができる Web アプリケーションサーバの選定でした。そこで同社は ColdFusion を含む 3 つのツールを比較・検討しました。コードを自動的に書き出すことができる製品は、システムの開発が容易な反面、保守性やメンテナンス性に問題があり、反対に、手作業でプログラムを書いていくとなると生産性が上がりませんし、人材の育成も必要となります。結果的に、生産性と保守性をバランスよく備えた ColdFusion が高く評価され、当時の最新バージョンである ColdFusion 4.5J を採用することになったとのことでした。

当時、導入を進めたチームのメンバーであり、現在は IT ソリューション部 情報基盤グループでグループ長を務める角川 友隆氏は「例えば、GUI ベースのツールは開発が容易な反面、ツールに依存する部分も大きく、将来にわたってずっとそのツールを使い続ける必要があります。これは継続性という意味で考えものです。実は、ColdFusion の前に別の製品を使っていたのですが、ある日突然サポートが打ち切られてしまい、肝を冷やしたことがあります。こういったリスクは避けなくてはなりません。かといって、コードを 1 から書いていくツールでは、開発の生産性に不安が残ります。その点、ColdFusion はさまざまなモジュールが用意されているため生産性が高く、メンテナンスも容易。開発したシステムを画面上ですぐ確認でき、結果がすぐわかるというメリットもあります。加えて、以前に使っていたグループウェアが ColdFusion をベースにしており、掲示板や施設予約の仕組みが簡単に構築できる点、米国でかなりのシェアを持っている＝今後の継続性も十分という点を評価しました」と語ります。

アプリケーション基盤の標準化に向けて

Web 系システムはアプリケーションの迅速な展開とメンテナンスの容易性というメリットがあります。そのため鹿島では、部門や支店がそれぞれ独自にシステムを立ち上げるようになりました。しかしこの調子でシステムが増え続けていくと、各部門に最適化されたシステムが社内に散在することになり、リソースの有効活用という意味でも、メンテナンスの手間という意味でも好ましい状態ではありません。そこで情報基盤グループでは、全社共通の開発/運用体制を整備し、一定のルールの下、社内システムを構築・運用していくという方針を打ち出しました。

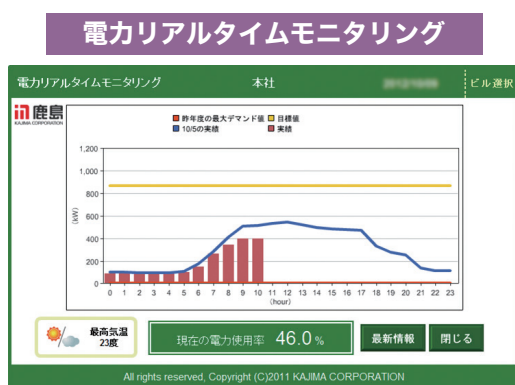
こうして 2003 年から共通アプリケーション基盤を整備し、2005 年にかけて社内システムを統合しました。その結果、何か新しいシステムを構築したいというときも、1 からインフラを用意する必要がなくなり、ルールも標準化されたため、短期間でユーザーのニーズに応えられるようになりました。

ユーザーからの要望へスピーディに対応

現在では、総務、人事、財務、土木、建築、営業など約 80 の業務システムのフロントエンドで ColdFusion が活用されており、ユーザーにさまざまな情報を提供/交換する仕組みが整っています。また、社内システムを効率的に利用するためのポータルサイトにも ColdFusion が使われています。

ITソリューション部 企画管理グループに所属する山本 潤氏は、2013年まで情報基盤グループに所属し、共通アプリケーション基盤の運用に関わっていました。「ColdFusionの魅力は、やはり開発における生産性の高さですね。私は入社後の研修で初めてColdFusionに触ったのですが、やりたいことがシンプルに実現できるので驚きました。現在はユーザーとしてColdFusionで開発された社内システムを利用する立場ですが、使いやすい機能を提供するという点でも非常に効果的なツールだと思います」

そして社内の各部門からの要望に応じ、スピーディにシステムを開発できることもColdFusionの特長です。例えば、2011年3月の東日本大震災後、社員の節電意識を高めるため制作した「電力リアルタイムモニタリング」システムでは、本社ビル群の消費電力量をFlashでリアルタイムに見える化し、電力使用量と昨年実績に基づいた目標値を一目で比較することが可能となっています。このツールの開発は、約1週間という短期間で完了させました。



Flash を利用してデザイン性を重視



開発の生産性だけでなく、運用性の高さも評価

共通アプリケーション基盤の下、ミドルウェア(開発言語)としてColdFusionを採用したことで、ユーザーの要望に応じてスピーディにシステムを開発できるようになりましたが、導入の効果はそれだけではありません。

「私たち情報基盤グループは、ITインフラの保守・運用を行う立場ですから、ColdFusionを開発言語というよりシステムの共通基盤として捉えています。例えば、システムへのアクセスに遅延が発生した際は、ColdFusionの「サーバーモニター」という管理ツールを使うことで、『システム間のリクエストの応答にこれだけ時間がかかっているから、このあたりを見直そう』といったように、問題解決のためのヒントを簡単に得ることができるのはありがたいですね。そして何より、導入から10年以上にわたって大きなトラブルなく安定して運用できていることが、管理者としては大きな成果です。ColdFusionのバージョンアップに際しても、細かい修正は必要だったものの、大きなトラブルは一切ありませんでした。」

オープンソースをはじめとした新しい開発言語などを利用するシステム導入について打診を受けることもあります。導入した後の保守を含め、独自に運用し続けることは困難です。情報基盤グループとしては、安定した運用の継続が大事ですから、インフラの共通基盤として長い実績があるColdFusionには今後も期待したいと思っています。」

今後、ITソリューション部が取り組むべき大きなテーマとして、現場の支援強化を検討しているとのこと。鹿島では、タブレット端末を現場のパトロールや検査業務などに活用するといった取り組みを行っており、また今後はクラウド・サービスを積極的に活用していく方針です。このようにデバイスやサービス、データが分散していく中、ColdFusionにはそれらをつなぐ役割を果たすことを大いに期待されていました。

文中の会社名、商品名は各社の商標および商標登録です。



株式会社サムライズ

〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-4 新大崎勤業ビル10F

TEL 03-5436-2042 FAX 03-5436-2041

URL <http://www.samuraiz.co.jp> E-Mail adobe_software@samuraiz.co.jp